

肺静脈閉塞症（PVOD）の診断基準確立と治療方針作成のための統合研究

研究分担者 羽賀 博典 京都大学医学部附属病院 教授

研究要旨 PVOD の症例を蓄積するために当院で行われたびまん性肺疾患に対する胸腔鏡下生検および肺移植時の摘出肺を病理組織学的に検討した。2013 年では 32 例の症例中、PVOD ないし PVOD 様の組織学的所見を含むことがあると予想される疾患(GVHD および肺高血圧症)はそれぞれ 4 例、2 例認められたが、今回の検討では PVOD の像は確認されなかった。さらなる症例の蓄積が必要である。

A. 研究目的

PVOD の症例を蓄積し、その臨床病理相関を明らかにする。

B. 研究方法

京都大学医学部附属病院にてびまん性肺疾患の疑いで胸腔鏡下生検ないし肺移植のために摘出された肺の病理組織像を検討した。

(倫理面への配慮)

データは氏名を消去しパスワードつきファイルで連結可能匿名化とした。

C. 研究結果

2013 年の VATS/pneumonectomy 症例は全体で 32 例あり、疾患の内訳は慢性過敏性肺炎(疑い例含む)7 例、肺 GVHD (造血幹細胞移植後)4 例、通常型間質性肺炎 3 例、原発性肺高血圧症 2 例、NSIP2 例、気管支拡張症 2 例、膠原病肺 2 例、肺気腫 2 例 (1-アンチトリプシン欠損 1 例含む)、濾胞性細気管支炎 1 例、IgG4 関連疾患 1 例、その他の間質性肺炎 4 例、非特異的線維化 1 例、部分肺静脈還流異常 1 例であった。PVOD の所見はこれらの症例について確認されなかった。

D. 考察

PVOD は稀な疾患であり、我々の施設では 2009 年に 2 例、2011 年に 1 例、それぞれ肺移植症例の部分像あるいは代表的組織変化として認められている。今回の検討では PVOD を認められず、当科での生検/肺移植適応疾患としては稀な疾患であることが確認された。

E. 結論

PVOD は骨髄移植後の慢性肺障害の部分像、あるいは肺高血圧症の肺生検において認められる比較的稀な病態である。高血圧を伴わない PVOD 様変化は造血幹細胞移植後の GVHD の部分像として認められる。今後も引き続き臨床的な肺高血圧症、GVHD を中心として症例を蓄積する予定である。

G. 研究発表 (当科が主体となって行った肺疾患研究の論文)

1. 論文発表

1) Fujimoto M, et al. SALL4 immunohistochemistry in non-small-cell lung carcinomas. *Histopathology*. 2014;64(2):309-11.

2) Fujimoto M, et al. Stromal plasma cells expressing immunoglobulin G4 subclass in non-small cell lung cancer. *Hum Pathol*. 2013;44(8):1569-76.

3) Sumiyoshi S, et al. Pulmonary adenocarcinomas with micropapillary component significantly correlate with recurrence, but can be well controlled with EGFR tyrosine kinase inhibitors in the early stages. *Lung Cancer*. 2013;81(1):53-9.

4) Yoshizawa A, et al. Validation of the IASLC/ATS/ERS Lung Adenocarcinoma Classification for Prognosis and Association with EGFR and KRAS Gene Mutations: Analysis of 440 Japanese Patients. *J Thorac Oncol*. 2013;8(1):52-61.

2. 学会発表

竹内 康英、羽賀 博典 他, 造血幹細胞移植後の肺慢性移植片対宿主病 17 例に対する病理組織学的検討.
日本病理学会会誌 (0300-9181) 102 巻 1 号
Page310 (2013.04).

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

特記すべきことなし